

第142話 石沢太惣治の参詣日記 その1 中山町 歴史散策

文化、文政期を境に、伊勢参詣者は、旅日記に名産、名物、名所を詳しく記録する習慣を持つようになります。旅日記を記す目的は、帰郷の後に旅物語をする資料、メモ用であり、もうひとつの役割は、次に参詣する者のための案内記録としての意味を持っています。

行程の難易、宿の良し悪し、見物に値する場所、目印などを丹念に書き留めて、これを回覧して身内や知人の参詣者に予備知識を与えるようになります。

今回からご紹介する石沢太惣治の伊勢参詣日記は、弘化2年（1845年）己正月5日出立、同5月17日赤湯に至るまで、132日に及んでいます。

石沢太惣治家は、当時多彩な事業を展開して、急速に台頭した新興商家でした。建築資材、塩、穀物を取引する一方、自らも紅花栽培を行い、田畑を求めては小作人に貸与し、質屋、酒造業などを手掛けたことから、家族に早逝の者が多いことから、盛んに医療知識を集め、客の求めに応じて

「まじない」や薬の調合の相談にも関わっています。

このような多彩な事業の中で取引相手、縁故者の高橋村助左衛門、弥吉、善左衛門、山形の深瀬栄蔵ら都合10名ほどが正月5日に山形に集合。夕方、上山温泉町の八幡屋弥太郎方を初の旅寝の宿としています。旅籠代1人200文と記されています。これは並の旅籠代で、節約を図ったのだと考えられます。

【用語の説明】

文化、文政期…徳川11代将軍家斉治世下、特に文化・文政年間（1804～1830年）を中心とした時代。江戸を中心し華やかな町人文化が栄えた。人情本（為永春水）、滑稽本、（十返舎一九・式亭三馬）、読本（曲亭馬琴）、歌舞伎（台本作者として鶴屋南北）、狂歌（大田南畝）、浮世絵（葛飾北斎、歌川広重）、肖像画（渡辺崋山）などにすぐれた作者が現れ、活躍した。化政時代・化政期ともいう。

※引用 中山町史 中巻 第10章第1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.10

あけましておめでとうございます。

我々2人は、山形で初めての年越しとなりました。本年もよろしく願いいたします。

雪の降る季節になり、「山形の寒さに耐え切ってみせる！」とストーブの前で意気込んでいる今日この頃です。

昨年のお話になりますが、9月から月に1～2回ずつ、中山町役場の課長会の皆さんにボランティアで柏倉家での各種作業をお手伝いしていただいています。活動実績は次のとおりです。

- 9月…水路の掘り出し
- 10月…小座敷の発掘、片付け、竹の伐採
- 11月…ブランコの撤去、荷物移動
- 12月…池の泥上げ

普段のお仕事でお疲れの中、また、ゆっくりしたいはずの土曜日の早朝に手伝っていただき、本当にありがたいです。私たちだけでは手が回らないことがたくさんあり、他にもいろいろな場面で町民の皆さんにお手伝い・ご協力いただいております。感謝感激です！

本年もたくさんの方にお世話になるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします！



9月に実施した水路の掘り出し作業の様子